

中学生徒は音色と文化的側面をどのように関連付けて学ぶか

—《壬生の花田植》を教材とした実践事例の分析—

永 井 美由紀

How do middle school students learn by associating timbre with cultural aspects?  
—Analysis of the Learning Process Using “Mibu no Hanadaue Material”—

Miyuki NAGAI

広島文化学園大学 学芸学部 紀要 第14号 (17頁 — 27頁)

2024

*Reprinted from*

BULLETIN of the HIROSHIMA BUNKA GAKUEN UNIVERSITY  
Faculty of Arts and Sciences

Vol. 14 pp. 17-27 2024

Hiroshima, Japan



中学生徒は音色と文化的側面をどのように関連付けて学ぶか  
— 《壬生の花田植》を教材とした実践事例の分析 —

永 井 美由紀

How do middle school students learn by associating timbre with cultural aspects?  
— Analysis of the Learning Process Using “Mibu no Hanadaue Material” —

Miyuki NAGAI

This study aimed to clarify the process by which individuals relate the characteristics of music, such as the emotional feeling, to its cultural background while interacting with other learners in a junior high-school music appreciation class using the local song “Mibu no Hanadaue” as teaching material.

The analysis of the practical lessons revealed that learners relate the two ideas by expressing and describing the characteristics of music that they perceive and feel and by consciously thinking about the thoughts and wishes of the person playing the music. By reflecting on this learning process and describing and becoming aware of the thinking that underlies this connection, learners become able to apply that thinking to other musical characteristics as well and to express these lessons in critical writing. Furthermore, learning to associate the characteristics of music with cultural aspects allows students to discover conclusions and find new values in music. These learning processes involve individual worksheets as well as shared worksheets that allow students to visualize their thoughts and share them with the group and group activities that allow the students and their teachers to interact and learn collaboratively. Learning tools and an interactive learning environment are required.

キーワード：

中等教科教育 Secondary Subject Education, 音楽科鑑賞領域 Music Department Appreciation Area, 授業実践 Class Practice

所属：

広島文化学園大学 Hiroshima Bunka Gakuen University  
学芸学部 Faculty of Arts and Sciences 音楽学科 Department of Music

## I 研究の動機

### 1. 研究の背景

平成29年度告示中学校学習指導要領解説音楽編では、音楽文化についての理解に関して、以下のように説明されている。「音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深める学習の充実を図る」<sup>1)</sup>。また、音楽教科書<sup>2)</sup>を見ると、郷土の音楽として日本各地の

祭りや芸能、諸外国の音楽として民族音楽や楽器などが取り上げられ、多様な音楽が根ざしてきた風土や写真などの視覚的資料が掲載されており、歴史的・文化的背景に関する資料が充実している。

そもそも「音楽文化」とは何かについて確認しておく。学習指導要領が示す「音楽文化」とは、それぞれの歴史や風土に根差した歴史的・文化的背景をもつ音楽という意味で「音楽文化」の用語を用いていると考えられる。教科内容<sup>3)</sup>

の観点からみると、こうした音楽の基盤となる歴史的・文化的背景は、「音楽の文化的側面」<sup>4)</sup>と呼ばれている。

小川由美は文化を「人の精神的活動（哲学・芸術・科学・宗教など）とそれによって生み出される所産を指す。音楽は、この精神的活動によって生み出されてきた文化の一つということである」<sup>5)</sup>と説明している（小川2017）。また、「学校音楽教育において人がいかに音や音楽を享受し生み出してきたかを考えることが音楽の文化的側面の学習」<sup>6)</sup>であると示している。すなわち、生徒が音楽そのものを理解しようとする際には、音楽が生まれる背景について思考を働かせることが必要であり、こうした学びの過程は、音楽とその音楽が生み出されてきた背景にある文化的側面とを関連付けていくことによって可能となるといえるだろう。

しかしながら、小川（2017）はこうした学習には二つの問題があると指摘している<sup>7)</sup>。それは、1) 扱う範囲と2) 学習方法の二つである。1) の扱う範囲では、ある一つの音楽を取り上げたとき、その音楽の文化的側面の範囲は膨大で多岐にわたることが多く、学習で取り上げる範囲を精査する必要があること、2) の学習方法では、音楽の文化的側面をその音楽から切り離し、単なる知識として教師から学習者へ伝達するような一方向の学習や学習者が文化的側面を言葉としての概念を得るにとどまるような学習ではなく、音楽とその音楽の文化的側面が関連付けられる学習展開によって、人々の営みにより生み出されてきた音楽そのものの理解を学習者へ促すような学習過程が必要であることが挙げられる。

以上のように、指導要領では音楽文化についての理解が位置付けられ、音楽教科書では豊富な資料が掲載されたり視聴覚教材が提供されたりするようになってきている今日、学び手である中学生徒は、それらの資料を活用してどのように音楽文化の理解を深めていけば良いのであろうか。あるいは、音楽科授業を実践する教師は音楽文化に関する知識を一方的に与えるのではなく生徒が主体的に学んでいくことができるようにどのような授業構成を計画し実践すれば良いのであろうか。

筆者はこれまで中学校教師として音楽科鑑賞領域の授業を数多く実践し、生徒が音楽の歴史的・文化的背景を理解することによって音楽の価値に気づき、音楽そのものの味わいを深める

ことができるという手応えを感じてきた。その一方で、限られた時間的制約の中では教師が一方的に音楽の歴史的・文化的背景に関する知識を伝達する傾向が強くなってしまふという学習指導上の難しさがあるということも感じていた。それでは、学びの主体である生徒がどのような学びの過程を踏むことによって、音楽文化についての理解を広げたり深めたりしていくことができるのであろうか。

## 2. 先行研究の検討

ここでは、教科内容の観点から生成の原理<sup>8)</sup>により導出された指導内容である「形式的側面」「内容的側面」「技能的側面」「文化的側面」の四つの側面に基づき授業実践を行なった先行研究を概観する。

文化的側面を扱った授業実践には田中・富岡（2007）<sup>9)</sup>、小林（2011）<sup>10)</sup>、小川（2012）<sup>11)</sup>、金（2012）<sup>12)</sup>の四つが挙げられる。この中で鑑賞領域の授業実践が行われたものは、田中・富岡（2007）、小川（2012）、金（2012）である。また中学校での実践は、田中・富岡（2007）、金（2012）である。

田中・富岡（2007）は、文化的側面を音楽の背景にある生活様式や生活経験として捉え、視覚的な情報として生徒に提示した。その結果、中学生徒は人の生活感情を含めて音楽を理解したことを論じている<sup>13)</sup>。小川（2012）は、分析の段階の後、最も音楽を特徴付ける文化的側面の情報を提示した。その結果、児童は音楽の理解が深まったことを論じている<sup>14)</sup>。金（2012）は、文化的側面を言語のみではなく視覚的な情報として、また生活様式・感情と関連付けて提示した。その結果、中学生徒はその土地の人々の感情を理解できることを論じている<sup>15)</sup>。

これら先行研究からは、教師が文化的側面の情報をどのようにして提示するかという示唆を得ることができるものの、学習者がどのように文化的側面を学ぶかについては明らかにされていない。中学生徒である個は、音楽とその音楽の文化的側面をどのように関連付けて広げたり深めたりして学ぶのだろうか。

## II 研究の目的と方法

以上の研究の動機を踏まえ、本研究では音楽とその音楽の文化的側面を関連付けて理解する学習に着目し、中学校音楽科鑑賞領域における

授業を構想し、研究授業を実施する。授業の中で中学生徒は、音楽の特徴と文化的側面をどのように関連付けながら学ぶのか、その学びの過程について明らかにすることを研究の目的とする。

そこで本研究では、中学生徒である個の学習過程に着目する。授業では、生徒は相互に関わり合って学んでいる。そのため、個の学びの過程とその個に他の生徒はどのように関わっているかという視点で捉えることが必要であると考える。

本研究は教育実践学研究的立場から実践的方法をとる。以下の手順で研究を進める。最初に、先行研究の検討で得た示唆をもとに、生成の原理に基づく音楽科授業デザインにおける音楽の特徴と文化的側面を関連付けた学びの単元構想について述べる。次に、授業を実践し、1) 中学生徒である個は音楽の特徴とその音楽の文化的側面をどのように関連付けながら学んでいたか、2) その学びの過程で個は他の生徒とどのように関わっていたか、の二つの視点から学習者が実際に学んでいる過程を分析し、音楽の特徴と文化的側面を関連付けた学習の重要性を論じる。

### III 授業構想

本研究授業は、《壬生の花田植》<sup>16)</sup> (教育芸術社2022) を教材とする。「壬生の花田植」<sup>17)</sup> は、広島県山県郡北広島町の郷土の伝統芸能である。2011年11月ユネスコ無形文化遺産に登録され、その文化的価値が世界水準で認められ、「華やかな飾り牛や早乙女、賑やかな囃子が織りなす絢爛たる田園絵巻の再現<sup>18)</sup>」として国内外から注目を集めている。毎年6月第一日曜日にサンバイ、囃子田、早乙女の歌とともに田植えが行われる田植え行事である。また、飾り牛、衣装、楽器の装飾の視覚的な要素が含まれている。「壬生の花田植」を含んだ中国山地で現在まで行われてきている田植え行事の起源は中世にさかのぼるといわれている。これは豊作祈願の行事であり、田植え歌を歌うことは田の神サンバイへの祈願ともいえ、田の神信仰と捉えることができる<sup>19)</sup>。

こうした教材をもとに、先行研究の検討で得た洞察を踏まえ以下の単元構想<sup>20)</sup> を行った。まず【経験】の段階(第1時)では、視覚的な情報によって学習者の理解を促すために映像を

用意する。学習者は始め《壬生の花田植》を音源のみで聴き、どのような音楽か想像をふくらませた後、映像で視聴する<sup>21)</sup>。そのうえで、《壬生の花田植》の音楽を実際に演奏するという直接経験の場を設定する<sup>22)</sup>。ここで学習者は、さら、早乙女の歌、小太鼓、大太鼓、手打鉦を演奏する。次に【分析①】の段階(第2時)では、《壬生の花田植》の音楽の特徴を知覚・感受し、グループ内や全体で相互交流する活動を設定する。グループ活動では各グループに1台の音源を視聴できるタブレット<sup>23)</sup>を用意し、学習者は《壬生の花田植》の音源を確かめながら知覚・感受したことについて相互交流を行う。全体交流では、それぞれのグループで交流した意見を出し合い全体で共有する。【分析②】の段階では、音楽の特徴を知覚・感受し文化的側面と関連付けて理解するために、学習者個人で文化的側面の情報を得る場を設定する。学習者はタブレット(インターネットにアクセス可能<sup>24)</sup>)を用い、文化的側面の情報を得る。【再経験】の段階(第3時)では、学習者が【分析②】の段階で得た情報をもとにし、音楽の特徴を知覚・感受したことと文化的側面とを関連付けて理解することができるよう、その音楽の背景にある人々の生活様式や感情と関連させて理解を促すための発問と共用のワークシート<sup>25)</sup>を用意する。ここでも学習者は音源を視聴できるタブレットを用い、グループ活動の中でいつでも音源を確かめることができる。最後に【評価】の段階(第4時)では、学習者はこれまでの学習の過程を個人で確かめ振り返りながら批評文を書く。ここでは音源を視聴できるタブレットを用いたり、これまでに使用したワークシートを見返したりしながら、批評文に取り組む。

以上の単元構想によって、学習者は《壬生の花田植》の音楽の特徴と文化的側面を関連付ける学びの過程を踏むことができるのではないかと想定した。このような単元構想による鑑賞授業において学習者同士が関わり合いながら学ぶためには、関わり合いを生み出す学習環境や道具が必要である。そこで本研究の目的である、学習者である個は他の学習者と関わり合いながらどのように音楽の特徴とその音楽の文化的側面を関連付けて学ぶのか、その過程を明らかにするため、3~4人の小集団で学習を進めることとし、グループ活動を第2時・第3時の学習の軸とする。その際、共用で使用するワーク



シートや付箋、音源を視聴できたり文化的側面の情報を得ることができたりするタブレットの学習道具を用いることとする。

#### IV 授業分析

##### 1. 研究授業の概要

研究授業の概要は以下のとおりである。

- ・ 単元名：音色を感じ取って《壬生の花田植》を聴き味わおう。
- ・ 対象学年：中学校第2学年（34名）
- ・ 実践時期：2022年5月～6月（全4時間）
- ・ 授業実践者：筆者
- ・ 教材：《壬生の花田植》<sup>26)</sup>

筆者が2021年度に《壬生の花田植》を教材として扱い研究授業を実践した際、学習者は音楽の特徴である「音色」の背景にある人々の想いや願いを感じ取っている様子（例：「サンバイの朗々とした歌声から、稲がたくさん実ってほしいという想いや願いを感じた」という記述<sup>27)</sup>）があった。このことから、学習者は「音色」と文化的側面を関連付けて音楽の理解を深めようとしているのではないかと推察し、今回の研究授業では指導内容を「音色」として（2021年度は「テクスチュア」）学習指導案を構想した。

- ・ 指導内容：音色と曲想
- ・ 指導計画：全4時間（表1）。

表1 指導計画

ステップ	学習活動	時
【経 験】	○《壬生の花田植》を視聴したり演奏したりする活動を通して、様々な音色に関心をもつ。	第1時
【分析①】	○様々な音色を知覚・感受する活動を通して、《壬生の花田植》の音楽の特徴を理解する。	第2時
【分析②】	○個人で《壬生の花田植》の文化的側面についてインターネットで調べる。	第2時
【再経験】	○《壬生の花田植》の文化的側面に関して得た知識を様々な音色と関連付け、《壬生の花田植》に対する考えを深める。	第3時
【評 価】	○様々な音色の特徴と役割や意味について考えるとともにその魅力を批評文に表し、味わいを確かなものにする。	第4時

##### 2. 分析の方法

###### (1) 分析の場面

まず、【再経験】の段階（第3時）（前記表1中の太枠の部分）でXグループの学習者3名（抽出生徒A・生徒B・生徒C）と教師（T）が音色の特徴と文化的側面について調べたり話し合ったりして音楽の背景にある田植えをする人の思いや願いについて考える発問を手がかりとし、音色と文化的側面を関連付けて理解しようとする場面を分析する。この場面で教師は、グループで共用しているワークシート<sup>28)</sup>に文化的側面について調べたり話し合ったりしたことを記述するように事前に指示している。生徒の手元には、第3時で使用する共用のワークシートの他に、第2時で使用した音色の特徴を知覚・感受した共用のワークシート<sup>29)</sup>、音色の特徴と文化的側面を関連付けて理解したことが実際の音楽から感じ取れるかどうかについて、タブレットで音源を視聴し確かめることができる共用の音源がある。Xグループでは、生徒C

が記録係となり、調べたり話し合ったりした音色の特徴と文化的側面を共用のワークシートに記述している。

次に、抽出生徒Aの個人の成果物であるワークシートの記述内容を分析する。1)【再経験】の段階で、グループ学習を終えた後の学習の振り返りの場面のワークシートの記述、2)【評価】の段階（第4時）でこれまでの学習を生かして批評文を書く場面のワークシートの記述を通して分析する。

###### (2) 分析の手順

授業分析では、筆者が言葉による授業記録を作成する。その記録を映像と照らし合わせて解釈した動作についても記述を加える。本分析では、授業記録に記された言葉や行動を手がかりにし、Xグループの抽出生徒Aが音楽の背景にある田植えをする人の思いや願いを問う発問からどのように音色の特徴と文化的側面を関連付けながら理解しようとするのかを突き止めよ

うとする。

Xグループでの活動時間約20分間のうち途中約2分間の場面を抽出し授業記録(表2)を作成した。この場面を抽出したのは、研究の目的を達成する上で最も有益な情報を得ることができると判断したためである。授業記録は、抽出生徒Aの学習過程に下線、抽出生徒Aと他の学習者との関わりが見られる箇所をイタリックで示す。また抽出生徒Aの個人のワークシートについて【再経験】の段階(第3時)を終えた後の振り返りの記述と、【評価】の段階(第4時)での批評文の記述についても分析し、抽出生徒AがXグループの活動でどのように学

んだのか、その過程に解釈を加える。

(3) 分析の視点

本分析では、抽出生徒Aが音色の特徴とその音楽の文化的側面を関連付けて理解する過程に他の学習者との関わり合いが影響しているのではないかと予測し、以下の2つの分析視点を設定した。

1) 抽出した学習者(抽出生徒A)は音楽の特徴と文化的背景をどのように関連付けながら学んでいたか。

2) その学びの過程で学習者(抽出生徒A)は他の学習者とどのように関わっていたか。

表2 分析場面の授業記録(B1~T33)

番号	「発言」・(記録映像から確認できる動作)
B1	(インターネットで調べたことを見せながら) 「ここ、ここ、ここ。この青くなっている部分。」 (「時期により歳神・七夕神・山の神」という箇所をタブレットの画面上でマークしている。)
C2	「見せて。」
T3	(それをみて)「なるほどね。」
C4	「ああ。」(B1が調べたことを共用のワークシートに書き込む「七夕の神・山の神」)
T5	「いいですね。これが(指をさしながら)ここに『(穀物がたくさん)実ってほしい』って書いてあるけど、これがどんな音色と結びつくの?実ってほしいって音楽のどこに表れているのだろう?」
ABC6	(教師の指した共用のワークシートを見ながら考えている様子)
T7	「音楽って思いや願いを表現するから...どんなところに感じ取れるのだろう?」 「そういう... (共用のワークシートを指さしながら)ほら、ここ、神に感謝って書いてあるけど、早乙女の...どんなところから感じ取れるのだろう?」
ABC8	(前時のワークシートを見て考えている様子)
A9	「太鼓の力強い音。」 (A自身が前時に付箋に書いた記述:「太鼓、力強い音→神様をイメージ」)
T10	(Aの書いた記述を見ながら)「ああ、これね。うーん、なるほど、なるほど。力強さね、うん。いいね、いいね。」
B11	(共用のワークシートの記述を見ながら) 「神様に感謝...割りと合ってない?だって...」
C12	(A9の発言した「太鼓の力強い音」を「太鼓の力強い感じ」と共用のワークシートに書き込む)
A13	(B11に応答して)「なんだろう...感謝というか、なんだか力強いというか、なんだか力強いというか...なんだかそういう感じ。」
B14	(Aの発言を聞き、考えてから)「力強いは結構ある。」
T15	「あるよね、そうだよね。」
A16	「こういう思いや願いというのは...」
T17	「力強さ...なんで力強さがあるのかな...」

番号	「発言」・(記録映像から確認できる動作)
A18	「うーん、なぜだろう。」(考える)
BC19	(考えている)
T20	「そこがきっとこれだね。」(共用のワークシートを指さしながら)「思いや願いだよね。」
A21	「ああ。」
T22	「別に力強く演奏しなくても、さらさらさらと軽い感じで演奏してもいいね。でも、それ(力強さ)を訴えかけているね、私たち、聴く人に。」
B23	「穀物がたくさん実ってほしいという強い思いから。」
A24	「 <u>ああ、強い思い。</u> 」
T25	「なるほどね、それが(音色の)力強さに表れている?」
B26	(うなずき)
T27	「なるほど、なるほど。」
C28	(共用のワークシートに記述しようとする)
T29	(共用のワークシートをみながら、マッピングの思考の流れを確認して) 「うん。そこかな。うんうんうん。」
C30	「どう書こう?」
AB31	「 <u>強い思い (A)。</u> 」, 「 <u>強い思い (B)。</u> 」
C32	(「強い思い」と書く)
T33	「いいね。」

表3 【再経験】での抽出生徒Aの振り返り

(下線はグループ学習での学びが抽出生徒Aのワークシートに記述された箇所)

○学習を振り返り、《壬生の花田植》がなぜ演奏されているのか、田植えをする人のどのような思いが込められているか、わかったことを書きましょう。
《抽出生徒Aの記述(原文のママ)》 太鼓の力強い感じ→穀物が豊かに実ってほしいという強い思いを表している。 早乙女は巫女的な存在。神様に感謝する代表みたいな人、江戸時代くらいから伝統を守ろうという思い→神様に感謝するために祭りのようににぎやかな感じがした。

表4 抽出生徒Aの批評文

(下線は音色の特徴を文化的背景と関連付けた記述、二重下線は分析の中で後述)

○《壬生の花田植》の味わいを伝える批評文を書きなさい。
《抽出生徒Aの記述(原文のママ)》 壬生の花田植は広島県で演奏されていて、稲の豊作を願う田楽という種類の芸能です。壬生の花田植は早乙女、サンバイ、はやし田の3つに分かれていて、早乙女はゆっくりとした音に合わせ美しい声で歌っています。サンバイはさらさを、はやし田は太鼓・小太鼓の力強い音、笛は華やかな音色で演奏しています。壬生の花田植には、 <u>穀物が豊かに実ってほしいという強い思いから太鼓で力強い音を出したり、</u> <u>笛や早乙女の美しい音や声で神様を出迎えたり、神様に感謝したりしています。</u> <u>この歌は美しく力強い音楽になっており、稲の豊作を願うことだけではなく、人々が元気になるような良い歌にもなっています。</u>



### 3. 分析結果

#### (1) 抽出生徒 A は音楽の特徴と文化的側面を関連付けながらどのように学んでいたか

最初に、抽出生徒 A は音色の特徴と文化的側面を関連付けながらどのように学んでいたかという視点から、抽出生徒 A の学びの過程を分析し解釈を加える。

##### a. 教師の発問によって【分析】の段階で知覚・感受した音色の特徴を捉えなおす

A9は「太鼓の力強い音。」と発言している。この発言は【分析】の段階（第2時）でA自身が音色の特徴を知覚・感受し付箋に記述したものを共用のワークシートに貼り付けた内容のものである。（付箋に書かれた筆跡からAであると判断した。）文化的側面と関連付けようとする場面で、A9は教師の発問T5・T7によって、【分析】の段階（第2時）で知覚・感受した太鼓の音色の特徴である「力強い音」についてワークシートを振り返りながら捉えなおしている。

##### b. 捉えなおした音色の特徴を繰り返し発言し自分自身で確かめる

A13はB11に応答し「なんだろう...感謝というか、なんだか力強いというか、なんだか力強いというか...なんだかそういう感じ。」と発言している。A9で捉えなおした太鼓の「力強い」音を繰り返し発言することでA自身が捉えている「太鼓の力強い音」を自覚している。

##### c. 共用のワークシートの発問によって音色の特徴と文化的側面を関連付けようとしている

A16は「こういう思いや願いというのは...」と発言している。知覚・感受した「太鼓の力強い音」を「田植えをする人のどのような思いや願いが込められているのだろうか。」という共用のワークシートの発問によって文化的側面と関連付けようとしている。(1)a. b. の学びの過程の中で、文化的側面と関連付けようとしている。

A18は「なぜだろう。」と発言している。教師の発問T17を受け、A16で関連付け始めた「太鼓の力強い音」と文化的側面を関連付ける思考が共用のワークシートの発問によって促されている。A21は「ああ。」と発言している。T20の発問によって関連付けようとする思考を深化させている。

##### d. 音色の特徴と文化的側面を関連付けた思考の気付き

A24は「ああ、強い思い。」と発言している。

B23の「穀物がたくさん実ってほしいという強い思いから。」の発言によって「太鼓の力強い音」と文化的側面を関連付け、田植えをする人の豊作への「強い思い」からであると気付く。

##### e. 音色の特徴と文化的側面を関連付けた思考を捉えなおし確かなものにする

A31は「強い思い。」と発言している。C30の発言によって気付いた「(たくさん実ってほしいという)強い思い」を発言し捉えなおすことでA自身の理解が促され、気付きを確かなものにしていく。

##### f. グループ活動で得た音色の特徴と文化的側面を関連付けた理解を振り返る

抽出生徒 A は【再経験】の段階（第3時）の振り返りの場面で個人のワークシートに「太鼓の力強い感じ→穀物が豊かに実ってほしいという強い思いを表している」（表3）と記述している。Xグループの活動の中で気付いた「穀物が豊かに実ってほしいという強い思い」を振り返りの場面で記述することで自己の学びを省察している。

##### g. 太鼓の力強い音と文化的側面を関連付けた思考により、他の学習者が捉えた早乙女の歌声の音色の特徴と文化的側面を関連付けて思考する

抽出生徒 A は振り返りの中で「神様に感謝するために祭りのようなにぎやかな感じがした。」（表4）と記述している。分析対象とした授業記録の学習場面の後、早乙女の歌声の「お祭りのような感じ（筆跡より生徒Cが【分析】の段階（第2時）で知覚・感受したものと判断した。）」という音色の特徴と「早乙女は巫的な存在。神様に感謝する代表みたいな人」という文化的側面を関連付けて思考している。

##### h. 抽出生徒 A の学びの過程が表出された批評文

抽出生徒 A は【評価】の段階（第4時）で行った批評文を書く活動の中で「穀物が豊かに実ってほしいという強い思いから太鼓で力強い音を出したり」と記述している（表4下線）。Xグループの活動で太鼓の音色の特徴とその文化的側面を関連付けた思考の過程が個人の振り返りにより自覚化され、批評文に表出している。

##### i. 思考過程の汎用による他の音色の特徴と文化的側面を関連付けた学びの表出

抽出生徒 A は同上の批評文の中で「笛や早乙女の美しい音や声で神様を出迎えたり、神様に感謝したりしています。」と記述している（表4下線）。太鼓の音色の特徴とその文化的側面

を関連付けた学びが「笛や早乙女」の音色の特徴と文化的側面とを関連付ける思考に汎用され、(1)g. よりもさらに深化している。

j. 音色の特徴と文化的側面を関連付ける思考は、音楽に新たな価値を見出す

抽出生徒 A は「美しく力強い音楽になっており、稲の豊作を願うことだけではなく、人々が元気になるような良い歌にもなっていると考えます。」と記述している(表4二重下線)。これまでの学びをとおして、抽出生徒 A は音色の特徴と文化的側面を関連付ける思考だけでなく《壬生の花田植》の音楽そのものに新たな価値を見出している。

(2) その学びの過程で抽出生徒 A は他の学習者とどのように関わっていたか。

次に、(1)で分析し考察を加えた抽出生徒 A の学びの過程は他の学習者とどのように関わっていたかという視点から、抽出生徒 A と他の学習者との関わりが見られる事例を抽出し、以下のように解釈する。

a. 他の学習者の発言に抽出生徒 A が応答する事例

(1)b. では A13は B11に応答して発言している。応答することで B11の「神様に感謝」という発言と A 自身が捉えなおした「太鼓の力強い音」を比較し「力強い」と繰り返し発言することで、A 自身が捉えた「太鼓の力強い音」を自覚している。

(1)d. では A24は B23に応答して発言している。B23の発言に応答し、音色の特徴と文化的側面を関連付けた思考の気付きを得ている。

(1)e. では A31は C30に応答して発言している。音色の特徴と文化的側面を関連付けた「強い思い」を発言することで気付きを確かなものにしていく。

b. 他の学習者によって抽出生徒 A の学びが強化された事例

B14は A13の発言を聞き、考えてから「力強い結構ある。」と発言している。この場面では(1)b. で A13が B11に応答し比較しながら繰り返し「力強い」と発言したり、C12が A9の発言した「太鼓の力強い音」を共用のワークシートに「太鼓の力強い感じ」と書き込んだりしている。B14の発言は発言したり書き込んだりしながら協働的に学んでいるグループ学習の過程によって生まれ得たものであり、抽出生徒 A の捉えた「太鼓の力強い音」を捉えなおし

強化している。

c. 他の学習者によって抽出生徒 A の学びが拡充された事例

(1)d. では、B23の発言によって A24は音色の特徴と文化的側面の関連に気付く。(1)b. で捉えなおした「太鼓の力強い音」が(2)b. のように強化されたことで A24の気付きに至っている。それは A24の「ああ」という感嘆にも表れている。

B26は T25の問いかけによってうなずくという行動をとっている。B23の発言に A24と T25が応答し、T25が問いかけたことで、B26は自分の発言が強化される。B26のうなずきの後、C28・C30が共用のワークシートに太鼓の音色の特徴と文化的側面を関連付けた「強い思い」を記述しようとする。抽出生徒 A はこれら T と B のやり取りや C の記述しようとする行動によって音色の特徴と文化的側面を関連付ける学びを拡充している。

d. 抽出生徒 A が他の学習者の学びに影響を与えた事例

B14は A13の発言を聞き考えてから「力強い結構ある。」と発言している。B11から B14の直前まで「神に感謝」と考えており、A13が【分析①】の段階で捉えていた「太鼓の力強い音」を自覚することで B14の視点に変化を及ぼしている。

B23は T22の発言の後、「太鼓の力強い音」と「穀物がたくさん実ってほしい」という文化的側面を関連付け「穀物がたくさん実ってほしいという強い思いから。」と発言している。A13の発言により B14が応答したことで B の視点に変化が起こり、B23の思考を可能にした。

## V 結論と今後の課題

### 1. 結果と結論

本研究の目的は、中学校音楽科鑑賞領域の授業において音楽とその音楽の文化的側面を関連付けて理解する場面で、中学生徒は音楽の特徴と文化的側面をどのように関連付けながら学ぶのか、その学びの過程を明らかにすることであった。そのために、郷土の音楽《壬生の花田植》を教材とした鑑賞授業を構想し、実践し、音色と文化的側面を関連付ける学びの場面を分析した。その結果、抽出生徒 A が他の生徒と関わり合いながら音色と文化的側面を関連付けて学ぶ場面において、以下のことが明らかと

なった。

音色と文化的側面を関連付けて理解する場面において、抽出生徒 A は【分析】の段階で知覚・感受した太鼓の力強い音色を共用のワークシートの記述によって捉えなおし、教師の問いかけによって自覚し、「《壬生の花田植》の演奏には田植えをする人のどのような思いや願いが込められているだろうか。」という発問や生徒 B の「穀物がたくさん実ってほしいという強い思いから」という発言、またこの発言を受けて生徒 C が共用のワークシートに記述する一連の学習の過程により、抽出生徒 A は「太鼓の力強い音」と「穀物がたくさん実ってほしい」という豊作祈願である文化的側面を関連付け思考をする。田植えをする人の思いや願いという感情を問うことにより、音色の特徴と文化的側面の情報が関連付く。抽出生徒 A と他の学習者（生徒 B・生徒 C）は、互いに影響し合っており、教師の問いかけや共用のワークシートが作用している。

X グループの活動の後の振り返りの場面において抽出生徒 A は、「太鼓の力強い感じ→穀物が豊かに実ってほしいという強い思いを表している。」と記述する。【分析】の段階で生徒 C が知覚・感受した「早乙女のお祭りのような感じ」という特徴と「神に感謝」という文化的側面を関連付け、「神様に感謝するため祭りのようにぎやかな感じ」と記述する。X グループの活動の中で「穀物がたくさん実ってほしいという強い思いから」と関連付けて思考し、他の音色の特徴と文化的側面に汎用した結果である。ここでは、共用のワークシートが作用している。

鑑賞授業における評価の出口である批評文においては、「穀物が豊かに実ってほしいという強い思いから太鼓で力強い音色を出し」「笛や早乙女の美しい音や声で神様を出迎えたり」と記述し、音色の特徴と文化的側面を関連付けた学びを表出する。さらに「稲の豊作を願うことだけではなく、人々が元気になるような良い歌にもなっていると考えます。」と記述する。音色の特徴と文化的側面を関連付ける思考を超えて、音楽に新たな価値を見出した。

以上の結果より、以下に結論を述べる。

中学校音楽科鑑賞領域の授業において生徒は、知覚・感受した音色の特徴を発言したり記述したりして生徒自身が捉えた特徴を自覚した状態で、音楽を演奏する人の思いや願いという

感情を思考することにより、音色の特徴と文化的側面を関連付ける。このような学びの過程を振り返り、音色と文化的側面を関連付けて思考したことを記述し自覚することで、生徒は他の音色の特徴においてもその思考を汎用する。また、批評文においてこれらの学びを表出させる。さらに音色の特徴と文化的側面を関連付ける学びは、音楽に新たな価値を見出すことができる。これらの学びにおいて、学びの過程を自覚するための個人のワークシートや思考を可視化し、それをグループで共有できる共用のワークシートといった学習道具、生徒同士や教師が対話し協働的に学ぶことができるグループ活動といった相互に影響し合う学びの環境が必要である。

## 2. まとめと今後の課題

以上、中学生徒は音色と文化的側面をどのように関連付けながら学ぶのか、その過程を明らかにした。鑑賞授業において音楽の特徴と文化的側面を関連付けて学ぶ生徒は、音楽に新たな価値を見出すことにつながる。学習者である個は他の学習者と関わりながら協働的に学び合い相互に影響し合っている。個の学びの深まりには他の学習者の存在が必要不可欠であり、他の学習者の存在は個の学びに貢献しているといえる。特に、個が音色と文化的側面を関連付けて理解する場面においては、学習者同士が関わり合いながら協働的に学ぶ学習環境やワークシート・タブレットなどの学習道具は機能しているといえる。

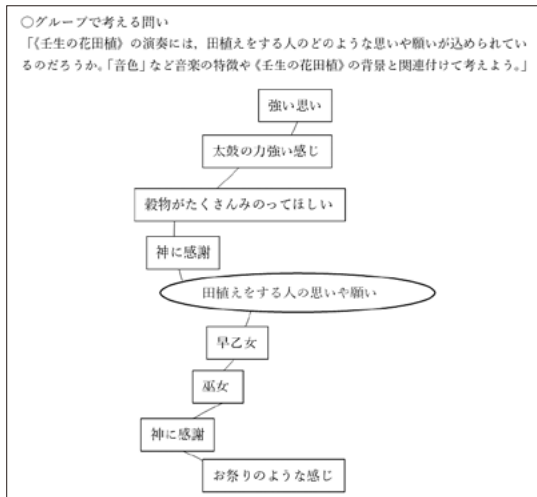
本研究で得られた結論が他のグループ活動や他の音楽を教材とした鑑賞授業においても適応されるかどうか検討することを今後の課題とする。

## 注

- 1) 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 芸術編』教育芸術社, p.6.
- 2) ここでいう音楽教科書とは、文部科学省の検定を受けて出版され音楽科授業で使用されている図書を指す。
- 3) 教科内容とは、音楽という教科において学習者が修得すべき知識や技能などが、音楽科の目標に即して組織化されたものである。その内容は、既存の音楽文化を基盤とし、音楽



- 文化の継承と創造、及び学習者の人間性の育成を目的として構成される。
- 4) 「音楽の文化的側面」は、生成の原理に基づく音楽科の指導内容の4側面のうちの1つである。生成の原理に基づく音楽科授業においては、「形式的側面」「内容的側面」「技能的側面」「文化的側面」から音楽を捉える。
  - 5) 小川由美 (2017) 「音楽と文化」『音楽教育実践学事典』音楽之友社, p.103.
  - 6) 小川由美 (2017), 前掲書, p.103.
  - 7) 小川由美 (2017), 同上書, p.103.
  - 8) 生成の原理とは, J. デューイの芸術的経験論から導出した音楽教育の理論である。
  - 9) 田中龍三・富岡扶企子 (2007) 「音楽科鑑賞授業における『文化的側面の理解』の指導について—中学校1年生の授業実践から—」『大阪教育大学紀要 第V部門』第55巻, 第2号, pp.65-78.
  - 10) 小林佐知子 (2011) 「わらべうたの文化的側面を生かした表現活動—《らんかんさんがそろたら》の事例を通して—」『大阪教育大学紀要 第5部門』第59巻, 第2号, pp.31-39.
  - 11) 小川由美 (2012) 「文化的側面が効果的に組み込まれた音楽科の単元構成：小学校2年生における鑑賞授業の分析を通して」『学校音楽教育研究』第16巻, pp.57-66.
  - 12) 金奎道 (2012) 「異文化芸術を経験することの意義について：音楽学習における文化的側面の提示と生徒の受容から」『学校音楽教育研究』第16巻, pp.37-48.
  - 13) 田中龍三・富岡扶企子 (2007), 前掲書, pp.76-77.
  - 14) 小川由美 (2012), 前掲書, p.65.
  - 15) 金奎道 (2012), 前掲書, pp.46-47.
  - 16) 教育芸術社 (2020) 『中学生の音楽2・3上』 pp.69-70.
  - 17) 《壬生の花田植》は教材, 「壬生の花田植」は伝統芸能を指す。
  - 18) 新谷尚紀監修 (2014) 『ユネスコ無形文化遺産 壬生の花田植 歴史・民俗・未来』吉川弘文館.
  - 19) 新谷尚紀監修 (2014) 『ユネスコ無形文化遺産 壬生の花田植 歴史・民俗・未来』吉川弘文館, p.120.
  - 20) 本単元は, 生成の原理に基づく音楽科授業における単元構成の方法的段階である「経験—分析—再経験—評価」にしたがって計画されている。
  - 21) 視聴する映像は, 新谷尚紀監修 (2014) 『ユネスコ無形文化遺産 壬生の花田植 歴史・民俗・未来』吉川弘文館に付属されているDVDを使用する。
  - 22) ここでは, 大太鼓・締太鼓・棒ささら (身近な音具たち <https://kyoushien.kyokyo-u.ac.jp/taka/1002.html>) ・晩歌 (<https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/5272.jpg>) の中から早乙女の歌を演奏する。
  - 23) 学習者がタブレットで視聴する音源は, 「壬生の花田植 | 動画で見るニッポンみちしる | NHK アーカイブス」 ([https://www2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004200031\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004200031_00000)) を参照。
  - 24) 文化的背景を調べる学習の場面では, 北広島町のホームページ「壬生の花田植」 (<https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/site/hanadaue/>) のみを限定し文化的側面の情報として学習者に与えた。
  - 25) 共用のワークシートの発問は次のとおりである。「《壬生の花田植》の演奏には, 田植えをする人のどのような思いや願いが込められているのだろうか。『音色』など音楽の特徴や《壬生の花田植》の背景と関連付けて考えよう。」
  - 26) 教育芸術社 (2020) 『中学生の音楽2・3上』に「郷土の祭り・芸能」として掲載されている。農耕民族である日本人にとって田植えは身近であり, 郷土を広義に捉え, 学習者は音楽とその音楽の文化的側面を関連付けて理解できるのではないかと考えた。
  - 27) 研究授業へ参加する生徒及び保護者に同意を得て, 研究授業を実施し実践記録を収集した。
  - 28) 抽出グループXが【再経験】の段階 (第3時) の終了時に提出した共用のワークシート (一部抜粋) は以下のものである。ワークシートは生徒Cが一貫して記述し, 筆跡から個人が特定されないように筆者が代筆した。



資料1 抽出グループ X の共用のワークシート  
(一部抜粋)

29) 付箋を用い、「サンバイ (男声・ささら)」「笛」「打楽器 (太鼓・手打鉦)」「早乙女 (女声)」のそれぞれの音色について、どのような感じがするかを記述し、共用のワークシートを用いてグループ内で共有しながら学習を進めた。

### 主要参考文献

教育芸術社 (2020) 『中学生の音楽 2・3 上』 pp.69-70.  
 新谷尚紀監修 (2014) 『ユネスコ無形文化遺産 壬生の花田植 歴史・民俗・未来』 吉川弘文館  
 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 音楽編』 教育芸術社

### 付記

- ・本研究は、JSPS 科研費基盤研究 (C) 21K02560 (研究代表者：横山真理) の研究協力者として研究授業を実施した。
- ・研究授業へ参加する生徒及び保護者に同意を得て、研究授業を実施し実践記録を収集した。
- ・抽出生徒 A が【再経験】の段階 (第3時) の個人で学習する場面で記述したワークシートは以下のようなものである。(第3時終了時提出) 筆跡から個人が特定されないように筆者が代筆した。

課題：なぜ《壬生の花田植》が演奏されているのか考えよう。

調べたこと  
『昔は花田植～いました』神様にねがう← (神様が来るから)  
↓  
穀物が豊かに実ってほしい←太鼓の力強い感じ 強い思い

資料2 抽出生徒 A の個人のワークシート

### 謝辞

本論文における英文校正は、editege に依頼し校閲を受けた。心より感謝申し上げます。